東金市ヲフサ野遺跡のシシ穴遺構

半　澤　幹　雄

1．はじめに

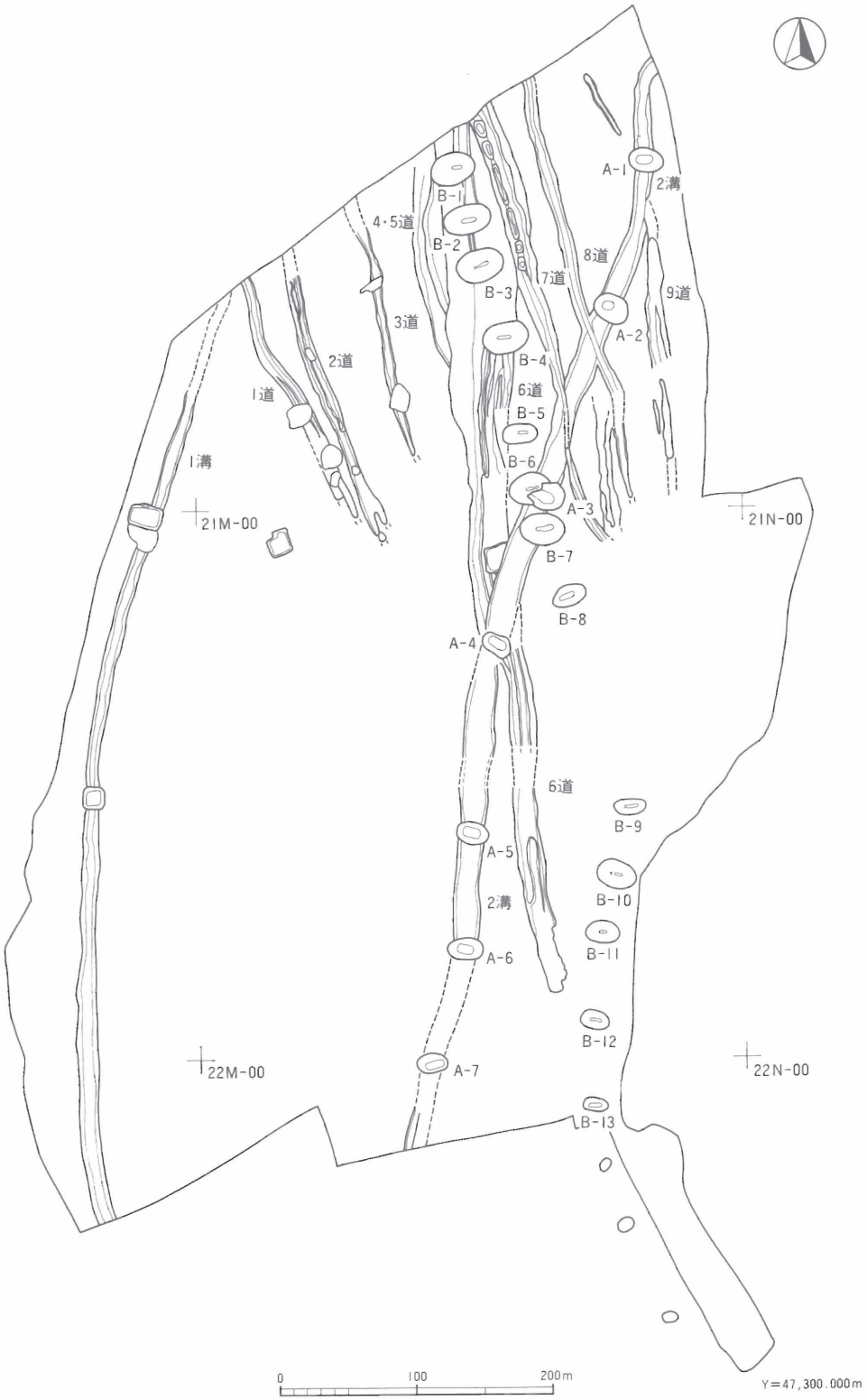
平成6年度に調査を実施した東金市ヲフサ野遺跡からは旧石器時代ブロック2か所、縄文早期陥穴7基、縄文時代遺物集中地点13か所、平安時代竪穴建物跡1棟、近世シシ穴(註1)22基、道路遺構9条、溝状遺構2条、炭窯5基が検出された。このうち、近世のシシ穴は列を成して検出されており、切り合い関係を持つ2列のシシ穴列であることが確認された。また、それぞれのシシ穴列を構成するシシ穴は形態が異なり時期差によるものと考えられたため、ここに報告するものである。

2．位置と環境

東金市酒蔵字ヲフサ野192他に所在するヲフサ野遺跡は東金市の東北部、山武町と接する辺りに位置し、樹枝状に広がる標高約54mの台地上に立地している。東金道路二期事業により調査の対象となった範囲は東南から入り込む小支谷により、中央部で東西に分けられる。

近世のシシ穴列、道路遺構、溝状遺構は遺跡の西半部、東緩斜面を南北に横切るように検出されている(以後、西側調査区)。西側調査区の東側中央の突出部から西に向かって小支谷が入り込んでおり、A4・A5号シシ穴の辺りが谷頭となる。また、B12・B13号シシ穴付近から東に向けて、痩せ尾根状に台地が突出しており、その南側は再び東から小支谷が入り込んでいる。なお、シシ穴は西側調査区の南北で現地表から確認することができ、このうち北側の2基については発掘調査を実施した(以後、北側調査区)。

第1図　ヲフサ野遺跡位置図（S＝1:25,000）



第2図　西側調査区遺構配置図（S＝1：500）

3．遺構

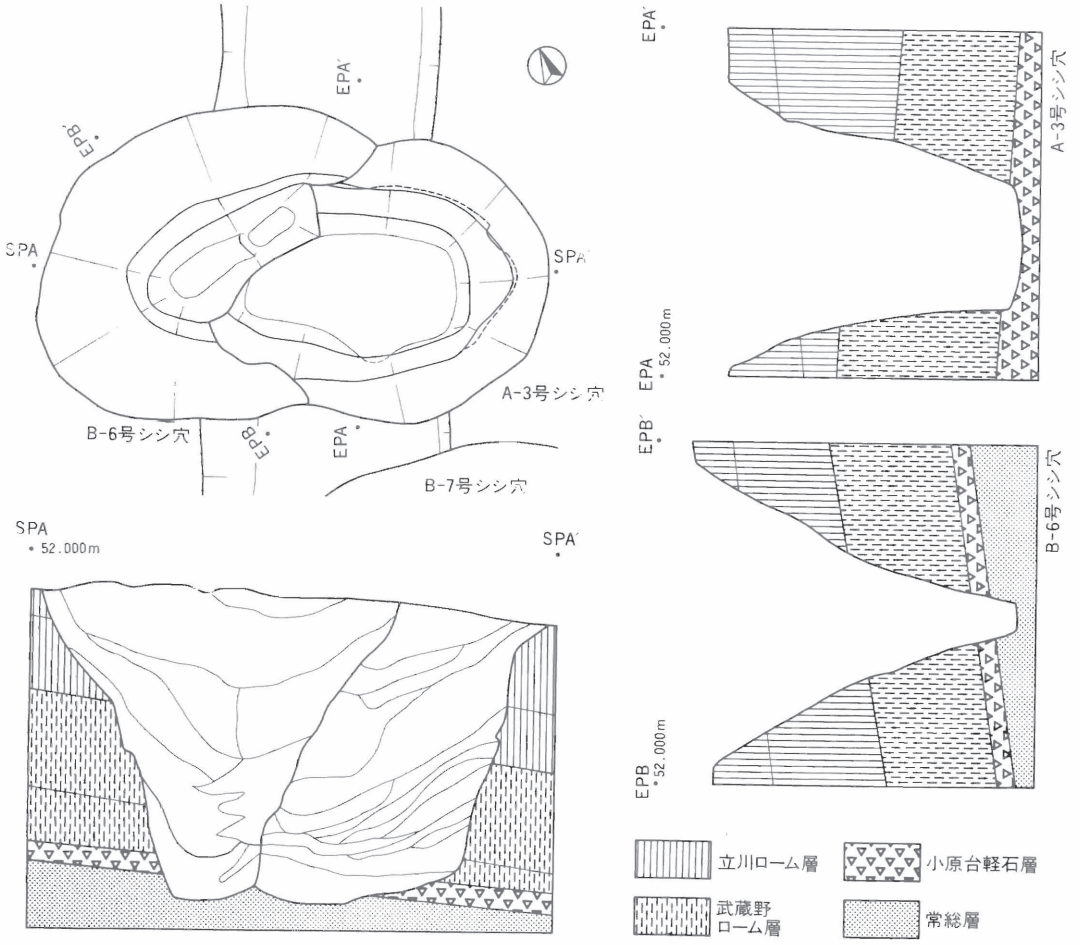
調査された22基のシシ穴すべてを図示することは本報告に任せることとして、ここでは切り合い関係を持つA-3・B-6号シシ穴、A-1•2•6号シシ穴、B-1•2•13号シシ穴と北側調査区および2号溝状遺構、6号道路遺構ほかについて述べたい。なお、本遺跡から検出されたシシ穴の形態、規模については文末に付表として掲載した。

シシ穴

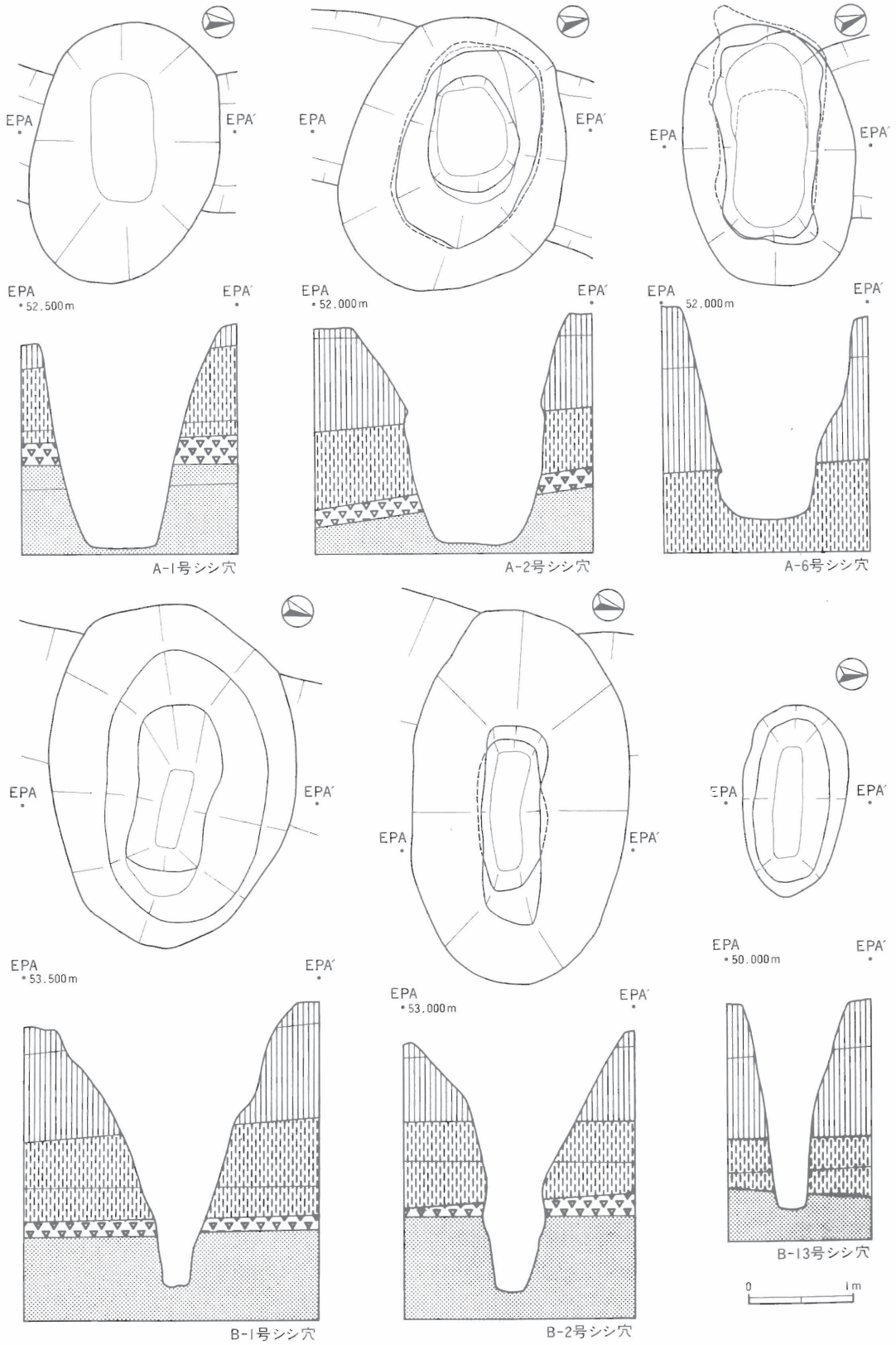
第2図A-3•B-6号シシ穴は西側調査区の中央北西よりに位置している。A-3号シシ穴は西北部をB-6号シシ穴によって切られており、長軸は推定3.10m、短軸2.22m、底部の長軸1.66m、短軸0.72mである。深さは最大2.50mを測り、常総層と考えられる白色粘土層まで達している。平面形態は前述したようにB-6号シシ穴に切られており不明瞭であるが小判形を呈していたものと考えられ、底部の形態は隅丸長方形を呈している。壁面全体が深さ1.00mのあたりで抉られるように崩落しているが、断面形態は長軸、短軸共に逆台形を呈していたものと考えられる。なお、シシ穴の短軸方向両側には2号溝状遺構が検出された。

B-6号シシ穴は長軸3.10m、短軸2.42mで楕円形の平面形態を呈していたと思われる。底部は東側1/3が10cm程低くなっているが長軸1.11m、短軸0.28mの短冊形を呈している。断面形態は、長軸方向がすり鉢形を呈していたと考えられ、短軸方向はY字形を呈している。

第3図A-1号シシ穴は西側調査区北東端で検出されており、2号溝状遺構に長軸を直交させるように掘り込まれている。検出面で長軸2.55m、短軸1.75mを測り、小判形の平面形態を呈している。底部は長軸1.22m、短軸0.61mの隅丸長方形を呈している。断面形態は長軸、短軸ともに逆台形を呈し、最も深いところで2.25mを測り、白色粘土層まで到達している。

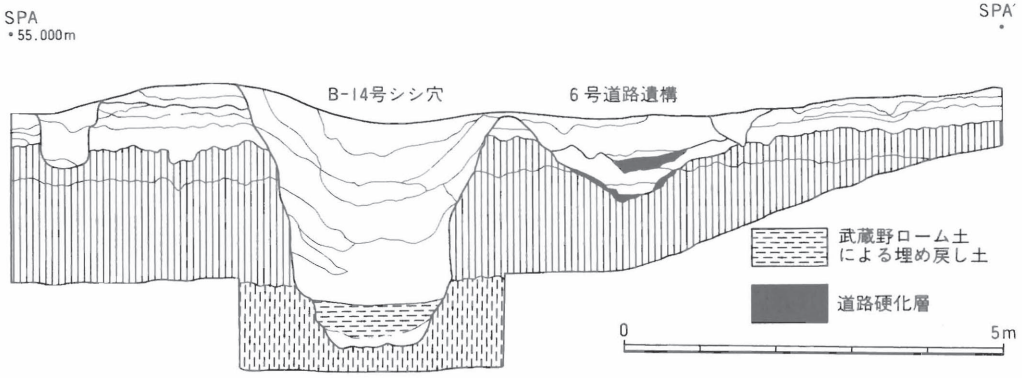


第3図　A-3・B-6号シシ穴実測図（S=1:60）



第4図　シシ穴実測図（S＝1:60）

第５図　北側調査区現況図（S＝1:200）



第６図　北側調査区Ａ－Ａ′断面図（S＝1：100）

A-2号シシ穴はA-1号シシ穴の南西に位置し、A-1•3号シシ穴と同様に2号溝に直交するように造られている。長軸2.68m、短軸2.05mで小判形を呈し、底部は長軸0.81m、短軸0.64mの隅丸方形を呈している。深さは2.50mあり、A-1•3号シシ穴同様に常総層まで到達している。壁面全体が深さ0.9mのあたりから崩落したように抉られており、特に西側（台地側）は著しく抉られ斜めに底部へと続いている。このため断面形態は広口壷のような形態を呈しているが、本来の形態は逆台形であったものと考えられる。

A-6号シシ穴は調査区南側中央部に位置している。シシ穴の北側では2号溝状遺構が検出されたが、南側では確認できなかった。長軸2.44m、短軸1.64mの小判形の平面形態を呈し、底部は西側（台地方向）の壁が強く抉り込まれており、旧形は長軸1.32m程で短軸0.69mの隅丸長方形を呈していたものと考えられる。深さは2.36mで、断面形態は長軸が逆台形、短軸は下端が抉られてはいるものの旧形は逆台形を呈していたものと考えられる。壁面の抉れの一部は横穴状に深く入っており、いわゆる「狸掘り」のような様相を呈している。

B-1号シシ穴は西側調査区北端に位置し、6号道路遺構の西壁および道路面を切って造られている。長軸3.26m、短軸2.34m、底部の長軸0.76m、短軸0.25mで平面形態は確認面が小判形、底部が短冊形を呈している。深さは3.10mを測り、西側にテラスを持っており、造り替えの痕跡と考えられる。断面形態は長軸方向がすり鉢形、短軸方向がV字形を呈している。

B-2号シシ穴はB-1号シシ穴の南側に位置し、同様に6号道路遺構を切って造られている。長軸3.56m、短軸2.08mの楕円形の平面形態を呈し、底部は長軸1.12m、短軸0.22mの短冊形を呈する。深さ3.12mで長軸断面はすり鉢形、短軸断面はY字形を呈しており、西側壁面の傾斜が若干緩やかな点は造り替えの痕跡の可能性も考えられる。

B-13号シシ穴は調査区の南東端に位置している。長軸1.86m、短軸1.00mの楕円形を呈し、底部は長軸1.08m、短軸0.28mの短冊形を呈している。深さは2.10mで上述の2基と比較すると小規模であり、断面形態も長軸が逆台形、短軸がV字形を呈しているが、確認面が低くなり上半分が無くなったためと考えられる。

北側調査区

北側調査区で現況でシシ穴と考えられる落ち込みおよび道路遺構と考えられる溝が確認されたため、周辺部を含めた測量調査を実施し、調査区内の2基のシシ穴と道路遺構の発掘調査を実施した。

調査の結果シシ穴は道路遺構の西側斜面中位から掘り込まれており、シシ穴の北側およびシシ穴とシシ穴の間には土手状の盛り土がなされていることがわかった。

また、調査区内の2基のシシ穴は底部に10cm程黒色土が堆積した後、武蔵野ロームと思われる土によって埋められ、再びやや広めの底部を造っていることが断面観察によって確認された。これは、造り替えが行われた痕跡と判断される。

なお、6号道路遺構については位置や遺構の状況から6号道路遺構と判断され、西側調査区検出分と併せて詳述することにする。

2号溝状遺構

2号溝状遺構は西側調査区の北東隅から南端中央部まで続いており、A-1号シシ穴からA-6号シシ穴まで造られている。A-6号シシ穴の南側では確認されなかったが、A-7号シシ穴の南側、調査区南端で溝の西側壁および底部の一部が確認されており、A-6号シシ穴からA-7号シシ穴付近の遺構確認面が若干低くなっていることを考慮に入れれば、溝はA-1～7号シシ穴を結ぶように調査区内を南北に走っていたと考えられる。溝の断面は凹字状を呈し、幅1～2.2m、深さは最大で0.5mを測る。また、A-3からA-6号シシ穴の間の覆土にはシシ穴の掘削土と考えられるローム土および粘土が確認された。なお、A-1•2号シシ穴は溝の確認面から明瞭に判別することができた。

6号道路遺構

6号道路遺構は西側調査区の中央を南北に横切るように造られている。調査区の北および北側調査区ではV字状の断面形態を呈し、底部と中位に硬化面が確認され、西側調査区中央部、小支谷内では黒色土上に硬化面のみが検出された。硬化面の幅は北側調査区の底部で0.5m、中位で1mを測り、西側調査区では1～3mであった。西側調査区では硬化面の幅が0.5m程の溝状に検出される箇所もあり、幅0.5～1m程の道路が部分的に移動し、広くなったものと考えられ、長期間使用された可能性が考えられる。

4．シシ穴の形態とその時期

本遺跡で調査されたシシ穴は2形態に分類することが可能である。すなわち、A-1～7号シシ穴のように断面形態が逆台形を呈し、底部が隅丸長方形もしくは隅丸方形を呈するものと、B-1～15号シシ穴のように断面がすり鉢のような緩い逆台形もしくはY字形を呈し、底部が短冊形を呈するものである。ここでは仮に前者をA形態、後者をB形態としておく。

A形態のシシ穴は2号溝状遺構に沿って造られており、相互に関連するものと考えられ、連続するシシ穴列と捉えられる。また、B形態のシシ穴についても6号道路遺構の西壁に連続して造られている点から列を意図したものであると考えられ、切り合い関係を有していることから別個のものと捉えられる。ここでは、前者を「シシ穴列-A」、後者を「シシ穴列-B」としておく。

次にシシ穴列の時期であるが、シシ穴、道路状遺構、溝状遺構から時期を特定できるような遺物は検出されなかった。しかし、これらの遺構の前後関係からその時期に迫ってみたい。

まず、前後関係のある遺構として、シシ穴列-A、シシ穴列-B、2号溝状遺構、6号道路遺構があげられる。これらの遺構の前後関係はおよそ以下のとおりである。

（旧）　　（新）

2号溝→シシ穴列-A→6号道路→シシ穴列-B

これらの遺構のうち、シシ穴列-Bの掘削土と考えられるローム土および粘土層と6号道路遺構の間から、わずかではあるがいわゆる宝永テフラと考えられる層が検出されており、シシ穴列-Bは宝永テフラ降下後それほど時間の経たない時期に造られたと考えられる。すなわち、宝永山の噴火が1704年（宝永7年）であることから、シシ穴列-Bの築造時期は18世紀前半と考えることができるのではなかろうか。

さらに6号道路遺構は幾面かの道路面を有し、移動した痕跡がみられることから、比較的長期に亘る一定期間の使用が考えられ、シシ穴列-Aとシシ穴列-Bの間には時間差が考えられる。この期間を決定する根拠は持ち得ないが、道路の使用期間を半世紀から1世紀程度と考えるならば、これに先行するシシ穴列-Aは17世紀前半に築造されたものと想定される。

5．シシ穴列とシシアナ

ヲフサ野遺跡のシシ穴列-Bは現況で確認される範囲でも数百mに及ぶ大規模なものであり、シシ穴列-Aも含めて、他のシシ穴も同様にシシ穴列としての広がりを持つものである可能性が考えられる。このようなシシ穴列と考えられるものに、白井町二部山遺跡や四街道市物井茶屋ノ作遺跡、佐倉市神楽場五反目遺跡などのシシ穴がある。二部山遺跡のシシ穴は、A形態に近い形態を有しており、間隔も比較的広くヲフサ野遺跡A列に似るが西側に柵列を有している点でヲフサ野遺跡例と異なる。物井茶屋ノ作遺跡のシシ穴は形態やシシ穴の間隔でヲフサ野遺跡B列に酷似しているが、一部が二重に造られている点で異なっている。神楽場五反目遺跡では45基のシシ穴が溝状遺構と柵列を伴って検出されている。「虎口」風の構造を有している点で特筆される。

また、柏市篠籠田字篠塚485-1地先野馬土手では小金上野牧の一部と思われる野馬土手に並行して走る堀内から土坑が23基検出されている。この土坑は長軸1.76m～3.75m、短軸0.78m～2.68m、深さ3.05m～4.20mで長軸を堀に直交させるように掘られており、土坑の多くはヲフサ野遺跡A形態シシ穴に似た形態を呈しており、シシ穴の可能性が考えられる。牧の周辺では野馬土手とシシ穴列が併設されていた可能性が考えられる資料として注目される。

一方、長大な列を成さずに土手と数基のシシアナから構成されるシシアナ遺構に白井町根シシアナ遺跡や同町唐沢シシアナ遺跡があげられる。根シシアナ遺跡はトレンチ調査が主体であったためその状況については判然としない部分があるが、唐沢シシアナ遺跡では全面調査により長軸36m、短軸24mの方形の土手内に長軸3～6m、短軸1.5～2m、深さ1～1.2mのピットが8基掘られている。ピットは「縄文時代のTピットに類似する。（糸川1989）」とされ、ヲフサ野遺跡B形態に似ていたものと考えられる。また、同様の構造が考えられる遺構として、成田市瓜生池遺跡例があげられる。瓜生池遺跡では長軸約10m、短軸約3m、深さ約1.2mのピット8基が検出されており、上部の構造は不明であるが左右に連続しないことから、唐沢シシアナ遺跡と同様のシシアナ遺構であった可能性が考えられる。

まとめ

以上、ヲフサ野遺跡で検出されたシシ穴遺構を中心に近世シシ穴について若干述べてきたが、近世のシシ穴の多くは農作物の被害を防ぐために造られたと考えるのが一般的である。唐沢シシアナ遺跡例にみられるような落とし穴と土手から成る主体部と複数の土手や溝から構成されるシシアナは、野馬土手における「取っ込め」のように「非日常的な追い込みによる捕獲」を目的としたもので、害獣を駆除することによって被害を防ごうとしたものであろう。一方、ヲフサ野遺跡例などの長大なシシ穴列は、城郭や牧における土塁や野馬土手、堀などのように内と外とを区画する意味合いが強く、そこには「日常的な防御」という性格を強く前面に押し出し、単なる害獣の駆除だけでは無く、害獣の農地への進入を防ぐことによって農作物の被害を無くそうとする「積極的な意識」がくみ取れるのではなかろうか。

また、ヲフサ野遺跡例のようなシシ穴列は耕作地の広がりなどの土地利用の状況を考古学的に検証する資料となる可能性を帯びており、近世村落の景観復元に必要欠くべからざる資料であると思われる。このことから、その時期や広がりについては今後十分に調査・研究がなされる必要があり、さらには地方文書や古絵図などの資料も踏まえた研究が必要となろう。

補註

(1)「シシ穴」の名称については『白井町二部山遺跡確認調査報告書』(蔀淳一1992白井町)によったものである。また、本遺跡周辺には「鹿(シカ)穴」、「鹿(シカ)穴台」の地名が残されている。

引用・参考文献

早川孝太郎　1926　『猪・鹿・狸』　郷土研究社第二叢書(1979　講談社学術文庫版による)

町田洋　1977　『火山灰は語る』　蒼樹書房

松下邦夫　1979　『白井町根シシアナ遺跡発掘調査報告書』　白井町教育委員会

石川久明　1982　『多聞寺前遺跡Ⅰ』　多聞寺前遺跡調査会

斎木勝　1985　『東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』　(財)千葉県文化財センター

糸川道行　1989　『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書　XⅠ』　(財)千葉県文化財センター

高橋健一　1991　『千葉県佐倉市神楽場・五反目遺跡』　(財)印旛郡市文化財センター

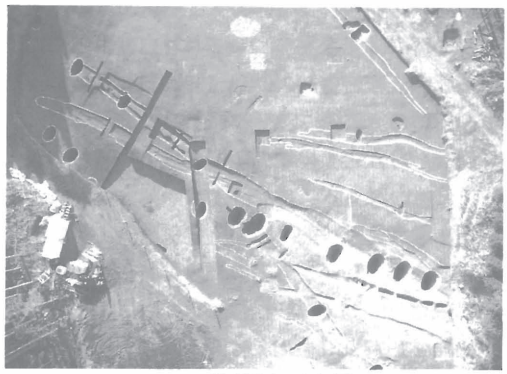
1993『財団法人印旛郡市文化財センター年報9』(財)印旛郡市文化財センター

進藤泰浩　1994『千葉県印旛郡白井町　二部山遺跡発掘調査報告書』(財)印旛郡市文化財センター

中原幹彦　1994　『柏市埋蔵文化財調査報告書24』柏市教育委員会

遺構番号	旧番号	平面形態	底部形態	長軸断面	短軸断面	長軸長	短軸長	底部長	底部短	深さ
A 1	101	小判形	隅丸長方形	逆台形	逆台形	2.55	1.75	1.22	0.61	2.25
A 2	102	小判形	隅丸方形	逆台形	逆台形	2.68	2.05	0.81	0.64	2.50
A 3	103	小判形	隅丸長方形	逆台形	逆台形	3.10	2.22	1.66	0.72	2.63
A 4	104	不整小判形	隅丸長方形	逆台形	逆台形	2.36	1.47	1.39	0.72	2.40
A 5	105	小判形	隅丸長方形	逆台形	逆台形	2.29	1.61	1.34	0.74	2.24
A 6	106	小判形	隅丸長方形	逆台形	逆台形	2.44	1.64	1.32	0.69	2.36
A 7	107	隅丸方形	隅丸長方形	逆台形	逆台形	2.16	1.42	1.35	0.55	2.32
B 1	111	小判形	短冊形	すり鉢形	V字形	3.26	2.34	0.76	0.25	3.10
B 2	112	楕円形	短冊形	すり鉢形	V字形	3.56	2.08	1.12	0.22	3.12
B 3	113	小判形	短冊形	すり鉢形	VY字形	3.54	2.24	1.20	0.16	3.00
B 4	114	小判形	短冊形	すり鉢形	Y字形	3.42	2.40	1.05	0.22	2.26
B 5	115	小判形	短冊形	すり鉢形	VY字形	2.52	1.46	0.78	0.25	2.58
B 6	116	楕円形	短冊形	すり鉢形	Y字形	3.10	2.42	1.11	0.28	2.45
B 7	117	小判形	短冊形	すり鉢形	Y字形	3.07	2.34	1.24	0.38	2.78
B 8	118	楕円形	短冊形	逆台形	Y字形	2.48	1.54	1.15	0.34	2.22
B 9	122	小判形	短冊形	逆台形	V字形	2.26	1.30	1.10	0.25	2.52
B10	123	楕円形	短冊形	逆台形	V字形	2.78	1.98	1.04	0.20	2.28
B11	124	小判形	短冊形	すり鉢形	V字形	2.46	1.70	0.64	0.16	2.20
B12	125	小判形	短冊形	逆台形	Y字形	2.18	1.31	0.92	0.21	2.16
B13	126	楕円形	短冊形	逆台形	Y字形	1.86	1.00	1.08	0.28	2.10
B14	131	楕円形		逆台形		2.64	1.50	1.15		3.50
B15	132	小判形			Y字形	3.50	1.74		0.20	3.64

付表　シシ穴計測表



1．西側調査区全景

2．２号溝状遺構

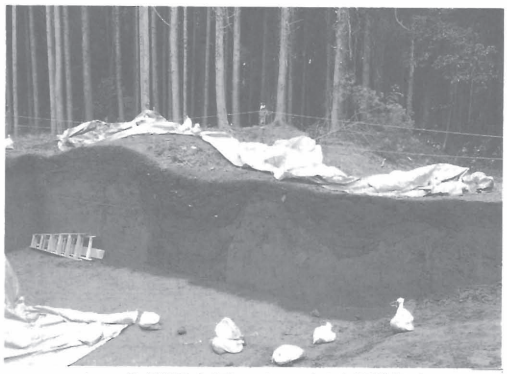
3．Ａ３・Ｂ６号シン穴完掘状況

4．Ａ３・Ｂ６号シシ穴土層断面

5．Ａ１号シシ穴完掘状況

6．Ｂ２号シシ穴完掘状況

7．北側調査区調査前



8．北側調査区、Ａ－Ａ′土層断面